

岩井歯科クリニックかわら版

No.1 2012.5.

✚ ご挨拶

この度ニュースレターを発行するにあたり、歯のことに限らず、生活の中で様々な感じたことをお伝えしていきたいと考えております。どうぞ、お気楽にご覧ください。よろしくお願い致します。

✚ 歯の歴史～よもやま話～

江戸時代の歯科治療がどのようなものであったか、ご存じでしょうか。江戸時代、民間で口腔疾患を扱う医者は「口中医」と呼ばれていました。

そして、「口中医」の中で「入れ歯」を作る者だけが、「はいしゃ」と呼ばれていました。

様々な記録を調べていると、江戸時代の歯の治療は歯を抜くことと、入れ歯を作ることが主であったと思われます。

現在の「総入れ歯」が顎に吸着する理論を、既に実用的に応用していた世界最古の「総入れ歯」は、なんと日本にありました。和歌山市の願成寺で1978年に発見された「総入れ歯」は、尼僧の佛姫<俗名：中岡テイ。天文7年(1538)4月20日没。享年74歳>の物でした。黄楊（ツゲ）の木「一木造り」で、奥歯がきちんと摩耗し、しっかり使っていた跡がみられます。食事をしても落ちない工夫がなされた「木床義歯」でした。

西洋で、実用的な「入れ歯」を製作できたのが1800年以降とされていますから（それまでは食べ物を咬めない、主に容貌を整えるだけの器具で苦痛を伴うもの）、当時の日本の「入れ歯」の技術は世界最高峰だったのだと思われます。

さて、現代をみると・・・本当の「入れ歯」を作れる人は、残念ながら少なくなってきました。江戸時代の人から「今じゃ、なかなか『はいしゃ』を見つけられないね。」と、言われてしまうかもしれませんね・・・。

（平成23年度 第4回岩井歯科クリニック講演会より主旨抜粋）

✚ 近況報告

今年の豪雪で庭木が数本折れてしまいました。実家で大切にしていた松も折れてしまい、ガックリきています。庭師さんに見てもらったところ、「完全に折れているわけじゃないし、首の皮一枚でつながっているから、なんとかしてみるよ。」とのこと。人間様の骨折と同じように、テープと副木で手当てを施し治療してもらいました。最近、あまり雪が降らないのをいいことに、「雪囲い」も最小限にしていたツゲが回ってきました。「何事も備えあれば憂いなし」を実感しているこの頃です。

✚ お知らせ

第7回 岩井歯科クリニック講演会を開催いたします。

期日は、**6月16日（土）PM 2:00 ～ 4:10** です。

テーマ：インプラント治療の問題。「入れ歯」の重要性。

遺言書について（別講師による講演）

* ご興味のある方は、岩井歯科クリニックまでお申し込みください。

詳しい案内状をご送付いたします。

Tel (0765) 54-4300

（このニュースレターに関する皆様からのご意見・ご感想などをお寄せいただければ幸いです。）